

令和元年度
架線による木材搬出作業システム現地検討会



R1.7.24現在

日 時 令和元年10月24日（木）13時00分～

場 所 愛媛県北宇和郡鬼北町父野川上節安
ヲリハタリ国有林2048林班い小班

四国森林管理局 愛媛森林管理署

架線による木材搬出作業システム現地検討会

日程 式次第

受 付（道の駅 日吉夢産地） 12：00までに 乗り合せ後、出発

～ 移動 ～ （約60分）

開 会 13：00～ 進行 地域林政調整官
主催者あいさつ 愛媛森林管理署長

資料説明 13：10～ 地域林政調整官
・ 架線及び路網の組み合わせ 主任森林整備官（資源活用）
・ 架線による定性間伐及び列状間伐 四国森林管理局資源活用課
・ 列状間伐
・ 愛媛県の現状 愛媛県

意見交換 四国森林管理局
愛媛森林管理署
（株）四万十林業

講 評 14：30～ 四国森林管理局

閉 会

位置図

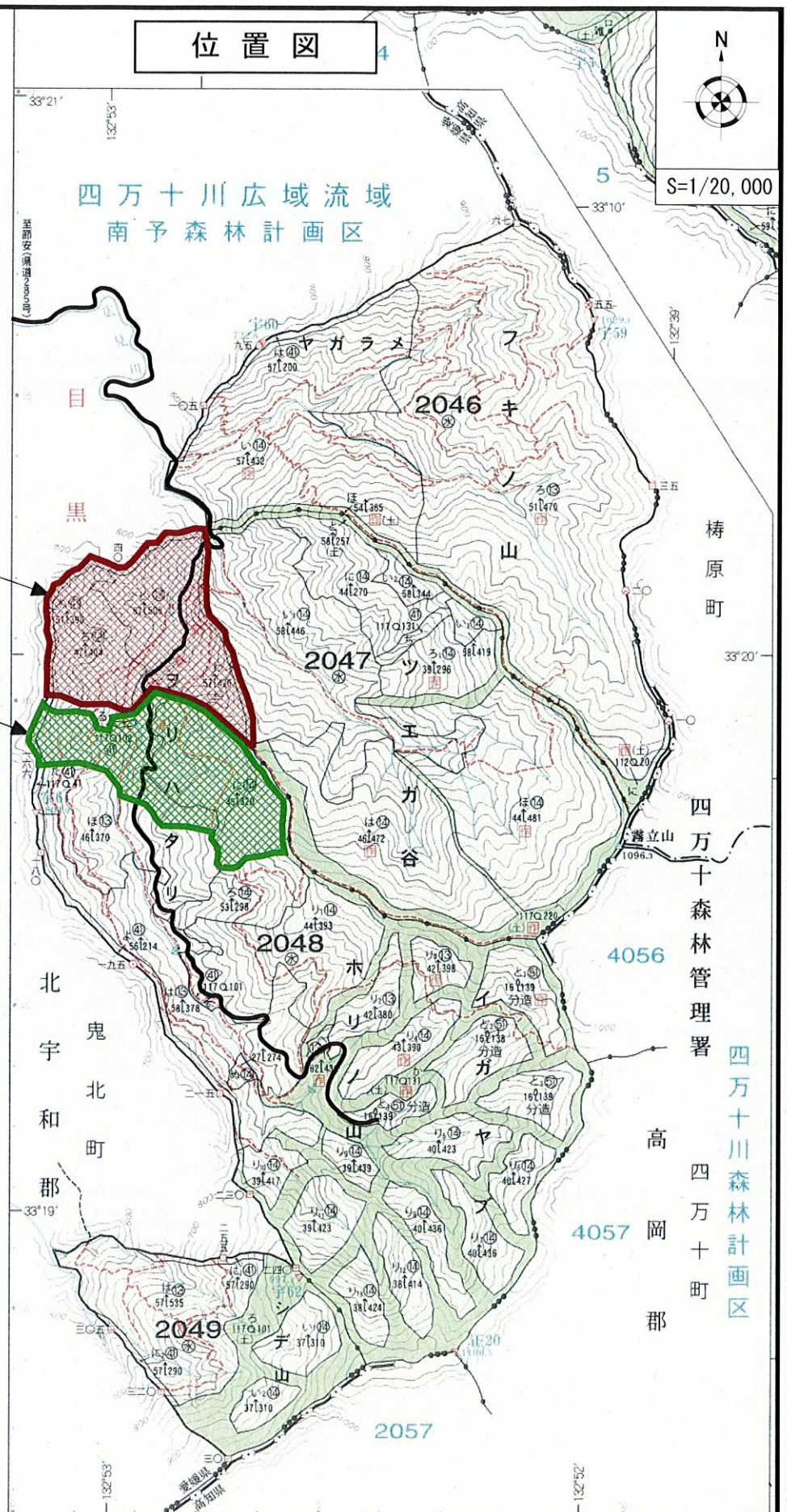


S=1/20,000

四万十川広域流域
南予森林計画区

平成30年度

令和1年度



○ 事業名

森林環境保全整備事業

(ヲリハタリ2048外 保育間伐【活用型】・受光伐) 翌債

○ 事業箇所及び事業実行事業体

ヲリハタリ国有林2048い林小班外 保育間伐【活用型】

株式会社 四万十林業 代表取締役 山本 祐司

○ 契約期間等

契約日：平成31年3月25日

事業期間：自 平成31年3月26日 至 令和2年2月28日

○ 事業内容

面積：23.71HA

(スギ 9.25HA) 48年、60年生

(ヒノキ 14.46HA) 48年、54年、60年生

立木本数：12,750本

立木材積：4,447m³

本数伐採率：33～38%

契約数量：2,500m³ (スギ、ヒノキ、マツ、他L)

事業内容：全木伐倒、木材生産、作業道作設(1,340m)

○ 架線設備

索張方式：エンドレスタイラー3胴式

架線 ①：架線延長 690m

主索径 22mm

架線 ②：架線延長 870m

主索径 24mm

架線 ③：架線延長 810m

主索径 22mm

平成 31 年度

森林環境保全整備事業(保育間伐(活用型))

事業図

ツリハタリ 2048 林班 に 小班

S = 1 : 5,000

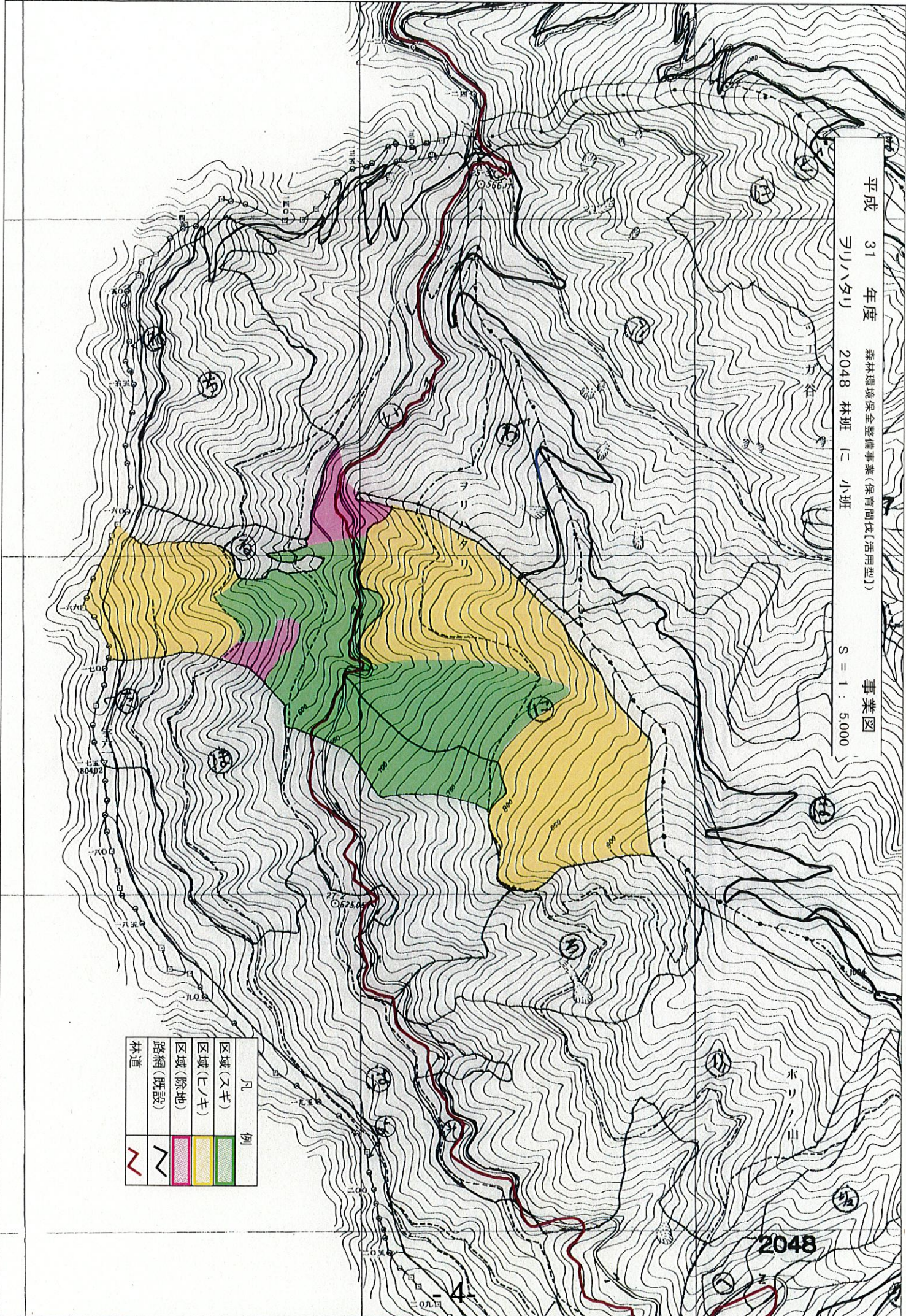
ツリハタリ

水
リ
山

2048

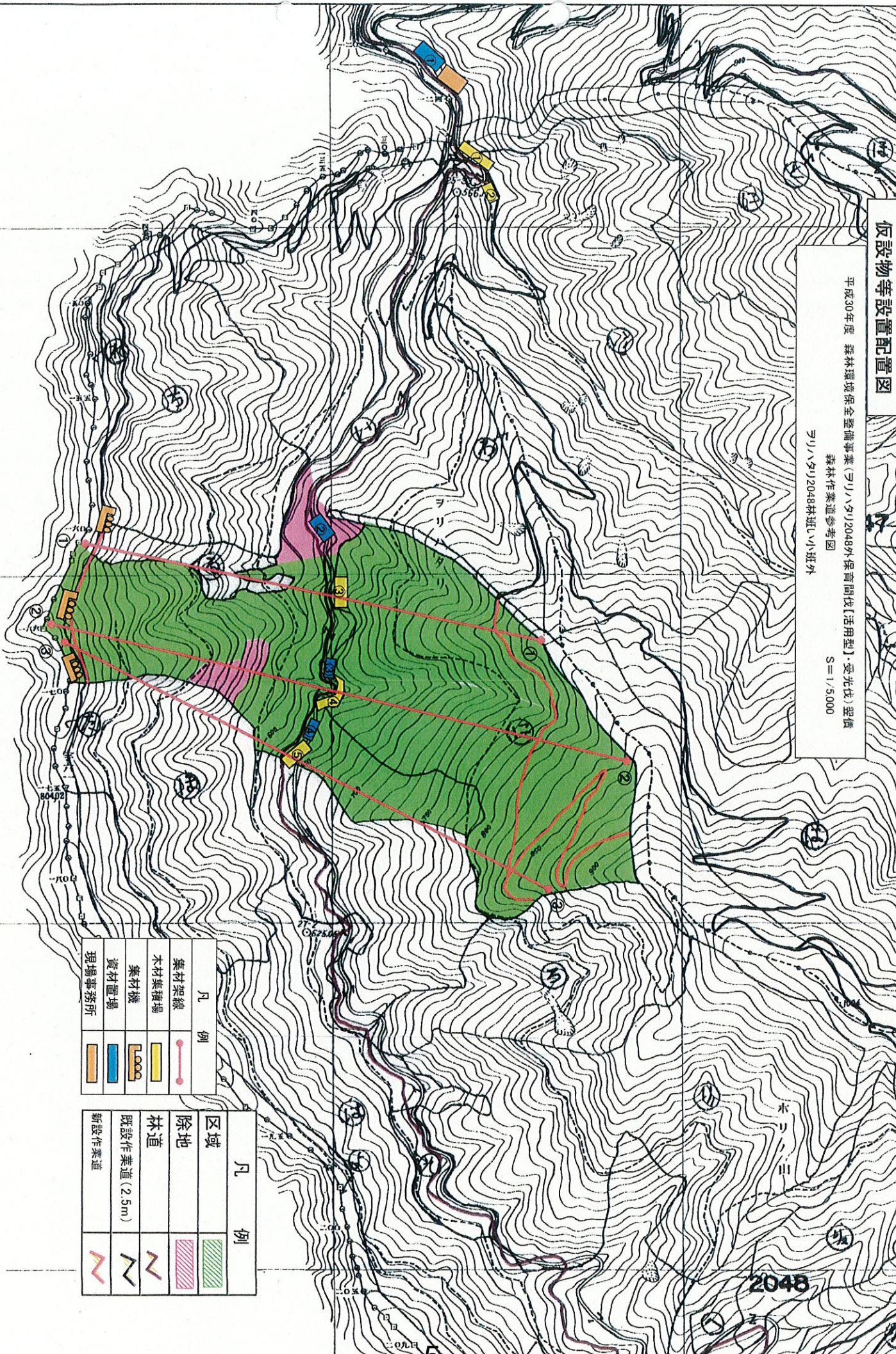
-4-

凡	例
区域(スギ)	
区域(ヒノキ)	
区域(除地)	
路網(既設)	
林道	

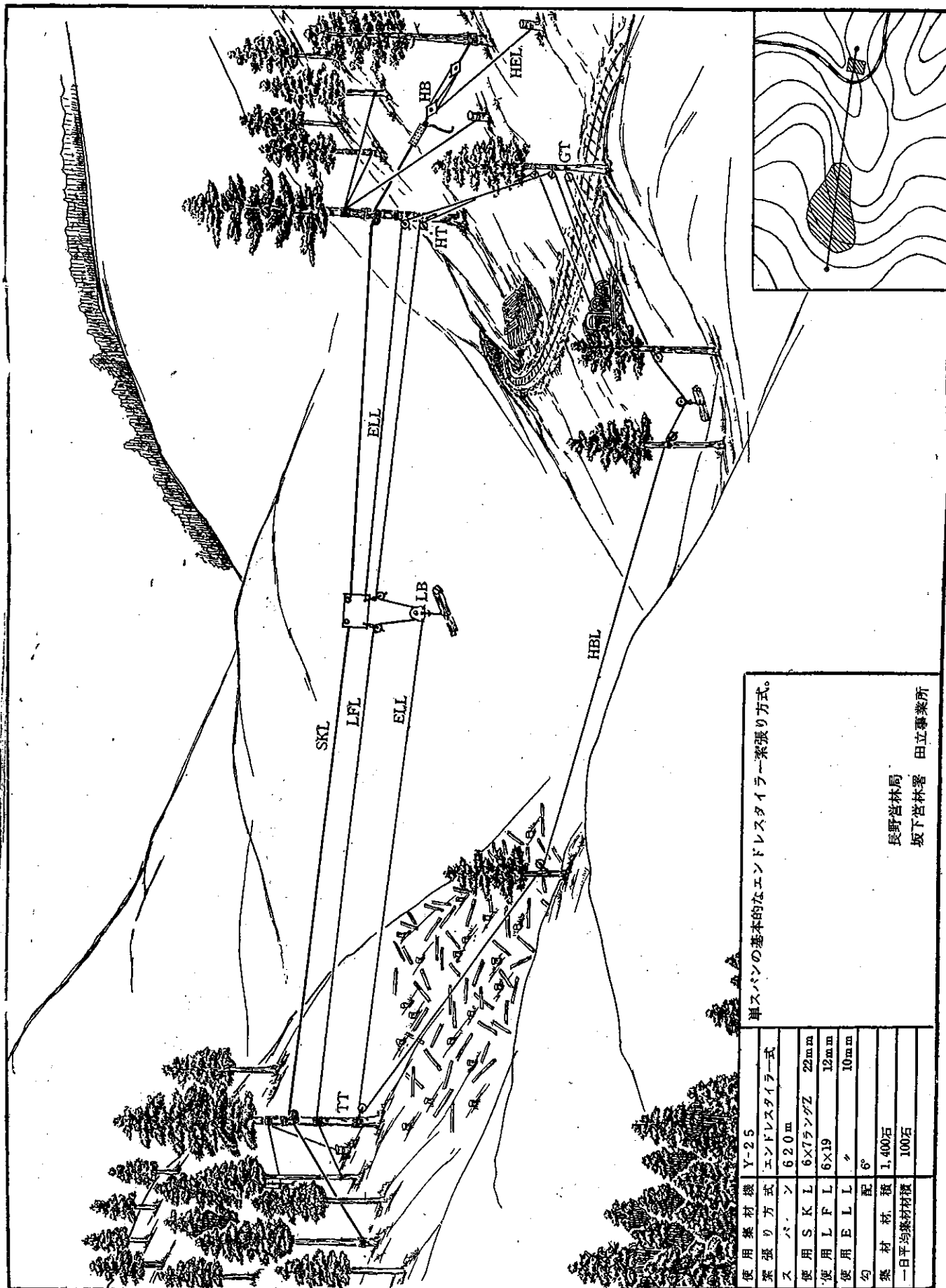


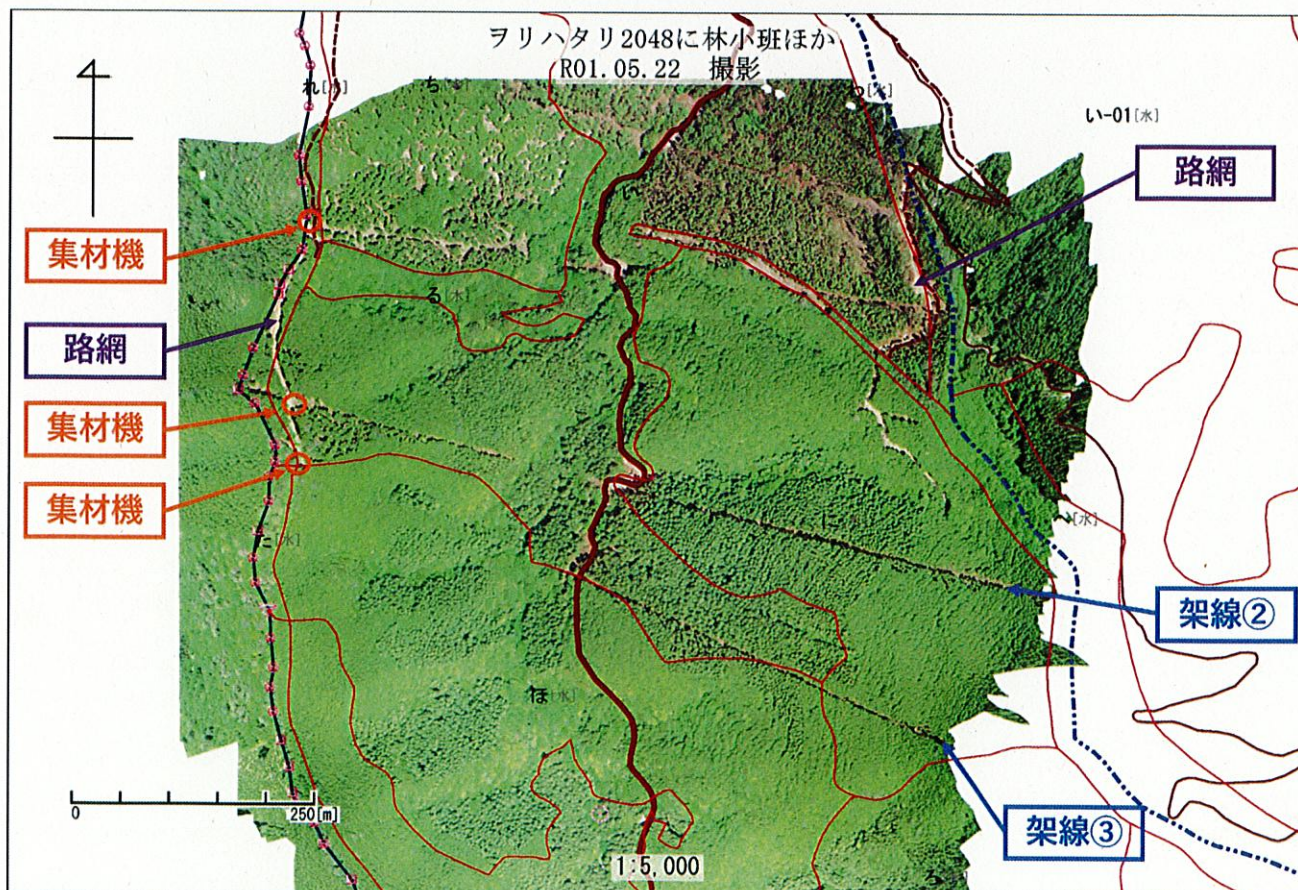
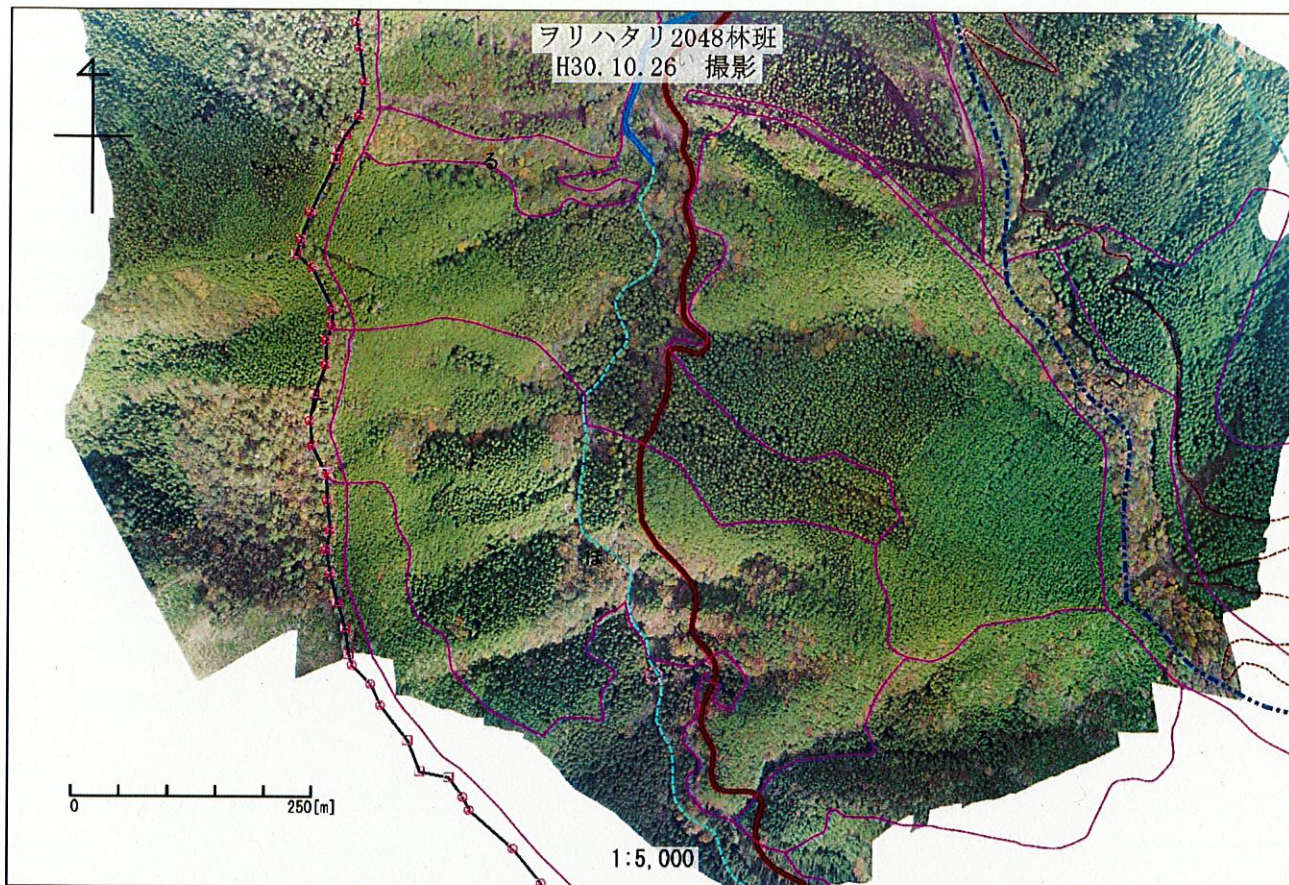
仮設物等設置配置図

平成30年度 森林環境保全整備事業(ツリハタリ2048外保育間伐(活用型)・受光伐)整備
 森林作業道参考図
 ツリハタリ2048林班(ハ)班外
 S=1/5,000



凡	例	凡	例
区域		集材架線	
除地		木材集積場	
林道		集材機	
既設作業道(2.5m)		資材置場	
新設作業道		現場事務所	







列状間伐



路網による搬出箇所（ヒノキ林分）



架線による搬出箇所（スギ林分）

(参考資料)

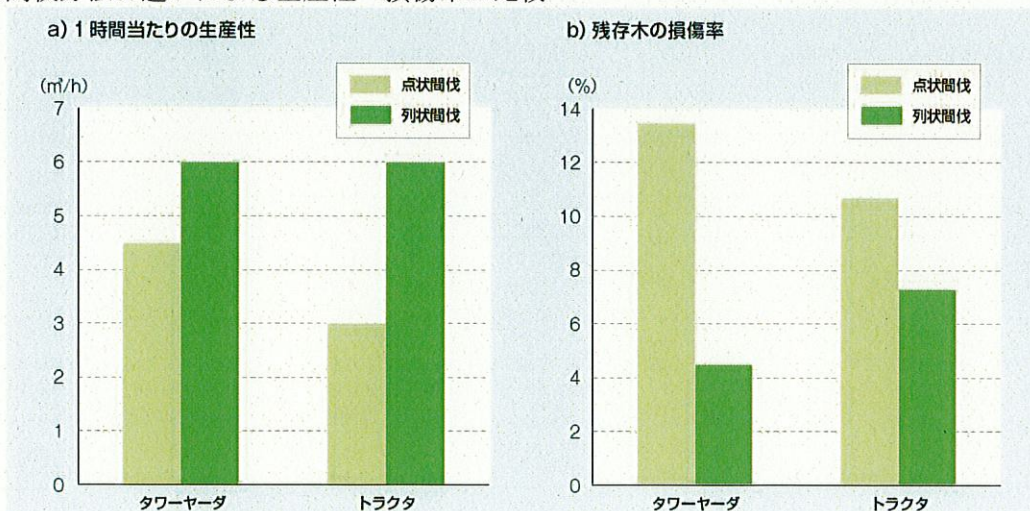
列状間伐について

- 間伐は、これまで間伐する伐採木を現地で確認しながら単木的に選定し伐採する「定性間伐」が広く行われてきましたが、森林の状況ごとにきめ細かな保育が可能等の利点がある一方で選木・伐採・集材に高度な技術と手間を要する等の課題があります。
- このため、生産性向上とコスト縮減を図る間伐方法として、植栽列や斜面方向等に沿って直線的に一定の列(幅)を決めて伐採する「列状間伐」が国有林を中心に導入され、最近では民有林でも導入されています。
- 列状間伐は、①選木の手間がかからない、②伐採・集材が容易になる、③残存木の損傷率が軽減する、④労働災害の大きな原因であるかかり木が減少する、⑤高性能林業機械を用いた作業システムの導入による生産性の向上が可能というメリットがあります。
- 伐採列数と残存列数の組み合わせにより、例えば1列を伐採し3列を残す場合を「1伐3残」と呼びます。

○間伐の方法 (ピンクのレ点及びラインが伐採)



○間伐方法の違いによる生産性・損傷率の比較



(資料) 森林・林業白書

列状間伐現地（香川所及び高知中部署）



香川所 檜原4 1林班 上空写真
1回目列状間伐箇所



香川所 檜原4 1林班 林内写真
1回目列状間伐箇所



高知中部署 谷相山3 林班 上空写真
列状間伐推進モデル林 2回目間伐実施箇所



高知中部署 谷相山3 林班 林内写真
列状間伐推進モデル林 2回目間伐実施箇所